

■目的（事業：2019年度日本サッカー協会公認A級コーチ養成講習会 静岡県トライアル）
東海トライアルの振り返りから指導者養成の現状を報告する

■分析対象 A級トライアル参加者（静岡4名、愛知4名、三重2名、岐阜2名）

■報告対象者

1種から4種指導者（B級ライセンス取得者後、A級ライセンス取得希望者）

■流れおよび全体像

A級トライアルに関しては県トライアル2月17日（日）科学技術高校にて行った。6名の枠に4名が参加した。東海A級トライアルに関しては①守備（2ライン）②ビルドアップ③フィニッシュ④攻撃の崩しの4テーマから抽選にて1つのテーマを決め、TR2とGAME（20分）を行った。選手役は、午前は東海学園大学、午後は愛知学泉大学の学生が行った。

■課題の発見と分析

濱崎氏の振り返りから、「テーマに引き込まれてしまう傾向が強い」「キーワードが目的になっている」「あくまでもキーワードは上手くいく為に必要なもの」との話があった。多くの方がデモやフリーズによる基準の提示が出来ていない印象でした。特にTR2での落とし込みが甘く、ゲームの中ではシンクロを中心にコーチングしたいところでした。テーマやキーワードが頭の中にあるのか、「現象に応じたコーチング」ができていない方が多く、「効果的なコーチング」の必要性を感じました。選手がコーチングによってどう変化したかという視点で観察すると今回はできていない方が多かったです。プレーさせ、指導者はその時間の中で分析し、目の前にいる選手の状況に応じてコーチングできるようにしたいです。指導力としての分析→改善→発展、個別指導・視覚化（デモ）・動機付け、サッカー全体像、テーマ理解が評価のポイントとなっています。基準を示すデモンストレーションやプレーに対するジャッジ、褒める声掛けが必要となります。

■トピックス

A級トライアルに関しては、B級→A級である為、（サッカー全体像の理解に加え、3人称（OFFの選手）、攻守、切り替え、テーマ理解）のB級レベルをクリアされているかが評価のポイントとなる。B級受講時の評価や現場での指導経験、テーマに応じたオーガナイズの作成の部分での準備が必要です。限られた時間（20分）でかつ緊張を伴う中でのTR2→GAMEになるので、コーチ自身が与えられたテーマの中でサッカーをさせて、何を獲得させたいかの基準を示すことが重要となると感じました。

■提言（東海A級トライアルに向けて）

- サッカー全体像の理解の中での効果的なコーチング（働きかけによる選手の変化）
- テーマの理解とオーガナイズの作成（キーファクターの整理）
- ミスの原因が分かる（観察・分析力）
- 改善があること（コーチング力）パフォーマンスの向上へ
- 基準を示す→ジャッジする
- 質（クオリティ）への追求（デモンストレーション）

※静岡3名、愛知2名、三重1名、岐阜1名の計7名が東海トライアル合格

※A級、B級静岡県トライアルの方法や、47FAインストラクターや技術委員による事前講習会や指導実践の場を来年度も開催できるようにしたい。

参加受講者 24名 J下部関係 12名 アカデミー 1名 中学 1名
高校 4名 大学 2名 クラブ3名 (怪我等による離脱2名)

まず、私がこのA級講習会に参加したきっかけがJFAスポーツマネジャーズサテライト講座に参加し、自分の目標や夢に向かうためにどんなことが必要なのか考える中、様々な刺激を受け、今回この年齢で挑戦することを決断しました。自分のチームを強くするため、女子サッカーをもっと普及、強化するためにまずは、アクションを自分から起こしてみようということから今回の挑戦となった。まずは、A級を取得することだけでなく、その後何をして行くかのビジョンまたは、志を持つことが大切だと考えます。

テーマは、7テーマ このテーマを通して、自分自身のサッカー観 サッカー理解を整理していく。

- | | | |
|-----------------------------|---------------|----|
| ① 高い位置からの守備の改善 | ① ② 攻に対して守 | ↑↓ |
| ② ビルドアップの改善 (高い位置からの守備に対して) | 守に対しての攻 | |
| ③ 中盤でボールを奪う守備の改善 | ③ ④ | ↑↓ |
| ④ 中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善 | | |
| ⑤ リトリートした守備の改善 | ⑤ ⑥ | ↑↓ |
| ⑥ リトリートした守備に対する攻撃の改善 | | |
| ⑦ カウンター攻撃の改善 (自陣に引き込んでからの) | 守りの要素と攻撃の要素を含 | |

※受講前に7つのテーマの指導計画を作成 (もちろん講習の中で修正できます。)

※トレーニングの方法を与えてくれる場ではなく、このテーマを使い、様々な受講生の指導実践やディスカッション インストラクターからの助言を通して、自分自身の考えを整理して行く形で進められ、デモンストレーションがあるのではなく、指導実践の中で学んで行く

※プレーヤとして指導実践の中に入るなので、動ける体づくりも準備しなくてはいけない、実際にプレーすることで、強度やオーガナイズについての感覚もつかめる。体をフィットすることの大切さを痛感した。

前期 TR1+TR2 25分程度 コーチ役と監督役

TR1では、反復性があり基礎的な部分(クラリティ)と個人戦術(パスやコントロールの質)のところを落とし込む。有効なデモンストレーションで基準を提示し、そのことをジャッジすることの大切さ、ボールの移動中やオフの時から準備(観ることや体の向き)そこを観ることが大切。TR2では8:8から11:11のワンウェイゲームでコンセプトの落とし込みする。自分のサッカー観、やり方を持つこと意図的な戦術行動を示して行くことにより試合に近づけて行く。(リアリティ)の追求、パワーバランスなどを考える。7つのテーマを前もってやり込んでいけばもっと出来たのではと反省。自分の力のなさを痛感して終了。

前期は、指導実践の他 講義として ゲーム分析 GKについて講義実技 コーチング法 I II フィジカルコンディショニングなど、最終日には筆記試験がある。このような講義の中にも多くの気づきがあった。

中期 前期の最後にテーマを選ぶ抽選があり最初の実践は、そのテーマを行う。TR1➡TR2 前期中期の間にA級の方やS級の方に指導実践を見てもらいコメントをもらう必要あり。私の場合同じ高校の鈴木氏や県のユースダイレクターの石井氏に見て頂き、本当に助かった。感謝しています。高校男子以上を指導している人は自チームでもやりこむ事ができるが下のカテゴリーの指導者や自分のような女子の指導者は高校生以上で実践をする必要があり、そのことで自分の幅も広がった。中期では指導実践2回目があり、TR2➡ゲームで行われた、この中では、前期でもあったようにコンセプトの提示をし、そのことをしっかりとジャッジすること、フリーズとシンクロのバランスを取ること、話が多く、プレー時間の確保がないことを指摘された。ポイントを絞った指導が必要。そのためにプレーヤー一人一人にタスクを与え、選手が自ら考え行動するよう促すことの大切さとそのことをしっかりとジャッジすることが求められた。ゲーム全体を見るための立ち位置大切さをあらためて感じた。

※前期と中期の間にプレゼン実習用にパワーポイントや映像を使い7つのテーマの中で抽選により決まったものを中期の中でプレゼンを行う。このことを行い、自分自身 映像を撮り、切り取って選手のミーティングに使うなど指導において選手に有効に伝えることが出来るようになった。講義は暴力根絶、メデイカル 心理学 栄養社会学 暴力根絶については、スポーツ界の様々な問題を今一度考えるきっかけとなった。栄養学などは改めて勉強したいと思えた。

後期 後期も指導実践を2回行ったが、最後の指導実践が最終試験となる。後期の指導実践では、指導実践を中期と後期の間に多く行ったことで、オフの動きを見ることやボールサイドだけでなく、逆サイドの選手などの動きも観れるようになり、自分の中では、成長を感じられる部分もあったことは良かった。ただ、やはり自分自身のサッカー理解がまだまだ足りず、最終試験では、合格点をもらうことはできませんでした。

※後期では、プレーの原則 チームの統率 システムの変換 7テーマの前提条件や指導上の留意点など20項目の中から口頭試験が行われた。人に伝える術やわかりやすい説明など今一度 あたなの中を整理することができたことは、収穫であった。

他のコースのことはわからないがこの最終試験での合格は3分の1ほどであった。

一月に静岡大学の学生の協力のもと、追試を実施していただき、合格をさせていただくことが出来たが、前述した通り、今後もサッカーを深く学ぶことを続けることと。毎日の指導やトレセン活動などにおいて今回の経験を生かし、さらに努力する必要があると考えます。「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」というロジェールメールの言葉が痛いほど感じる機会であった。

- ・本講習会は、与えられるものではなく自ら作り上げていくもの 自分なりのサッカー観を持つこと。
- ・サッカーを様々な角度から深く考える機会となった。
- ・様々なカテゴリーの指導者たちと長い期間、ともに研修を受けることで、多くの刺激を受けることが出来た、そのことが本当に大きな財産となった。
- ・指導実践ばかりに、目が向きがちであるが前述したように講義や口頭試験 各講習会の間に行った。ログブックなど、様々な気づきを得ることが出来た。
- ・今回、トライアルから本養成研修会に参加させていただける機会を与えていただきましたことに本当に感謝しています。ぜひ多くの指導者に挑戦してほしいと思います。そして、今回トライアルから、ユースダイレクターの石井氏や桐陽高校の鈴木先生 桐陽男子サッカー部、静大サッカー部の皆様、に多くの協力をしていただき、本当にありがとうございました。

2018年度A級ジェネラル養成講習会 報告書

報告者：大川井 淳士（清水エスパルス）

1. コース (1) 第1コース（山梨、山梨学院大学会場）
(2) 日程 前期5月28日（月）～6月2日（土）5泊6日
中期7月9日（月）～7月14日（土）5泊6日
後期11月12日（月）～11月17日（土）5泊6日

2. テーマ ①高い位置からの守備の改善
②ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して）
③中盤でボールを奪う守備の改善
④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善
⑤リトリートした守備の改善
⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善
⑦カウンターアタックの改善（自陣に引き込んでから）

3. 振り返り

指導実践をするにあたり、前提条件を含むテーマを理解し、自分自身のコンセプトを明確に持っているかどうか（エリア別、攻守共に）、また選手へしっかりと落とし込み、選手達が戦術的行動を起こせているか、を試される良い機会となりました。

そして選手が起こしたプレーについてしっかりと基準を示し、ジャッジしていくことで、選手が迷いなくプレーし、変化していくことがわかりました。

ミスが起こった際には、その選手のプレーだけでなく、その周辺の状況、オフザボールの準備がどうであったか、に目を向けることで、現象を分析する・原因を理解することが出来、良い改善につながりました。

また選手役としてもプレーしましたが、良いデモンストレーション（基準）を示すためにも、コーチ自身のコンディションは最低限維持しなければいけないと感じました。

4. 提言

日常から自分の哲学・コンセプトを言葉に起こし（言語化）、文字にしておく（文字化）ことで、自分自身の考えが整理される（カタログ化）と思います。サッカーの原理原則を忘れず、更にブラッシュアップしながら、指導力を高め、その先に選手達がいることを常に意識しながら取り組んでほしいと思います。

A級ジェネラル養成講習会 報告書

報告者：廿日岩 亮（静岡県立浜松湖南高等学校）

<コース概要>

コース：第4コース（和倉温泉運動公園多目的グラウンド）

インストラクター：山橋貴史、越田剛史、（山口隆文）

日程：前期 5月28日（月）～6月2日（土）

中期 9月10日（月）～9月15日（土）

後期 11月30日（金）～12月5日（水）

参加者：前期23名、中期・後期21名

<内容>

●指導対象は大人のアマチュアチーム、プレーヤー、ユースチーム、プレーヤー

●チーム戦術が中心（明確なコンセプトを持つ、コンセプトを明確に伝える、コンセプトの完成を目指す、意図的な戦術行動を取らせる）

●7テーマによる指導実践

①高い位置からの守備の改善 ②ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して） ③中盤でボールを奪う守備の改善 ④中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善 ⑤リトリートした守備の改善 ⑥リトリートした守備に対する攻撃の改善 ⑦カウンターアタックの改善（自陣に引き込んでから）

●実技

①各指導実践におけるプレーヤー役 ②GK指導法 ③フィジカルコンディショニング

●講義、筆記試験、口答試験

①GK指導法 ②コーチング法（トレーニングの構築、コーチング） ③コミュニケーションスキル ④ゲーム分析 ⑤フィジカルコンディショニング ⑥暴力根絶 ⑦メディカル ⑧スポーツ心理学 ⑨スポーツ栄養 ⑩スポーツの社会学 ⑪チームビルディング ⑫システムの変遷 ⑬チームの統率

●プレゼン実習（与えられたテーマに基づき、映像を用いたプレゼン資料を用意し発表する）

●ログブック（間の学習として指導実践を行い、A級又はS級保有者に見てもらおう）

●共通科目レポート（スポーツ医学、スポーツ心理学、スポーツの社会学）

<気づき>

- ・自分のサッカー観を築く、考え方の基本を持つことが重要であることを強く再認識した。その為に、サッカーの原理原則への深い理解、指導者としての知識と経験、一人の社会人としての知識と経験、これらをまだまだ深めていくことが不可欠であることを痛感させられた。
- ・明確なコンセプトを持つ→ゲームから逆算したトレーニングの構築→プレー基準を示しながら、選手自らが意図的に戦術行動を起こさせるトレーニング・コーチングの実践
自分自身、このサイクルの質がまだまだ低いと感じた。
- ・上記サイクルの質を高めるために必要な力の中でも、特に分析力（現象から原因を分析し改善するための具体を提示する）、観る力（局面＋全体、自チームだけでなく相手チームも、オンだけでなくオフザボールを観ることが重要）、伝える力（いつ・どこで・誰が・何を・どのように、具体的に且つシンプルに）が不足していると感じた。
- ・自身の何がどれくらい不足していて、何をどのように学び、成長させていく必要があるのかを明確にすることができた大変貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝致します。